

2026年度 学校経営方針

成田高等学校附属小学校

I 学校教育目標

【建学の理念】

成田高等学校は、成田山の宗教的使命の達成と、地方文化の向上のために、創設された。この理念に基づいて、本校は、高等学校、附属中学校、附属小学校の教育の一貫性を重視しつつ、広く優秀な生徒を募集し、文武両道に励むことを通して、社会に貢献する人材を育成する。



【学校教育目標】

知・徳・体のバランスがとれた児童の育成

～児童一人一人が輝くために～



【五つの努力目標】

1. 挨拶する 2. 正装する 3. 勉強する 4. 運動する 5. 掃除する

【めざす児童の姿】 今年度の合言葉 「仲良く 賢く のびのびと」

「やさしい子」

- ・互いを思いやり、助け合う子
- ・生命や自然を大切にする子
- ・感謝の気持ちを持てる子
- ・善悪の判断ができる子
- ・周りの人と、上手にコミュニケーションがとれる子

「かしこい子」

- ・基本的な学習習慣を身に付けた子
- ・自ら進んで課題を見つけ、好奇心や探求心を持って取り組める子
- ・感性が豊かな子（表現力・想像力が豊か）

「たくましい子」

- ・きまりを守り、安全に生活する子
- ・元気に運動や遊びに取り組み、進んで体を鍛える子
- ・困難に直面してもあきらめないで、最後までやりぬく子

【めざす学校の姿】

- ・子どもにとって喜びや楽しさがいっぱいある学校
- ・安全な環境で、安心して生活できる学校
- ・確かな学力を向上させる学校
- ・子ども、家庭、地域から信頼される開かれた学校
- ・挨拶と歌声の響く学校

【めざす教職員の姿】

- ・笑顔の素敵な教職員
- ・社会的立場と責任を自覚し、信頼ある行動をとる教職員
- ・子どもの人権を守り、子どものよさを引き出し伸ばす教職員
- ・研鑽と修養を積み、互いに高め合い、指導力を磨く教職員
- ・豊かな人間性を持ち、子ども、保護者、地域の人々から親しまれる教職員

II 基本方針

- (1) 教育環境の整備・充実を図り、安全で安心な学校づくりに努める。
- (2) 人権尊重の精神のもと、子ども一人一人を伸ばす学級経営や授業実践をとおして、児童の自主性・自律性を育て、楽しく充実した学校生活の実現に努める。
- (3) 全教職員による協同体制と、人材育成をめざす。
- (4) 保護者や地域と連携し、地域の教育力を生かすとともに、保護者や地域の期待と願いに応えられるよう、開かれた学校づくりを推進する。
- (5) 業務の見直しと改善を図り、働きやすい環境づくりを推進する。

III 今年度の重点と方策

- (1) 学校教育目標の具現化を図る教育課程を編成する
※私立学校の立場から、法令及び学習指導要領に基づきながらも、『建学の理念』を達成するために有効な教育課程を編成する。
- (2) 『5つの努力目標』の徹底をとおして、基本的な生活習慣の定着を図る
 - ・「5つの努力目標」は、児童が身に付けるべき望まし姿を、短い言葉で端的に言い表しているものであり、学校生活の基盤となるものである。全教職員の共通理解のもと、指導の徹底を図る。
 - ・挨拶、時間を守る、廊下歩行については、特に重点課題として取り組む。

※家庭教育との連携を図る。

- (3) 歌声の響く学校に

≪歌（合唱）に取り組む意義≫

- ・協調性や仲間意識を養う。
- ・幸福感や満足感が高まり、精神の安定化につながる。
- ・脳細胞の活性化を促進させる
- ・自己表現力の向上につながる。

葉牡丹祭への取り組み以外にも、日常的に歌を歌う機会を設けていく。(各学級で・音楽の授業で)

- (4) 学習指導の充実

- ① 学習形態の工夫により、学習への意欲を高め、基礎的・基本的な学習を定着させるとともに、思考力や判断力、表現力を高める。

【具体的な取り組み】

- ・『朝活の時間』として15分枠を設定し、漢字や計算のドリル学習や小テストを行い、基礎学力の定着を図る。「朝の読書」を利用して、保護者による読み聞かせボランティアを実施する。
- ・算数授業におけるTT指導、少人数指導を充実させ、児童個々にあったきめ細やかな指導を展開し、学力の向上を図る。

≪1～4年≫TT指導・・・1クラスを2名の教員で指導

≪5～6年≫少人数指導（児童選択による習熟度別）

・・・1クラスを2グループに分け、少人数で指導

- ・5・6年の英語授業にて、少人数指導（児童選択による習熟度別）を導入し、児童のレベルや関心意欲に応じた学習を展開する。少人数にすることで、英語をアウトプットする時間を増やしていく。
- ・デジタル教科書やiPadなどのICT機器を有効に活用し、豊かな学びを保障する。
- ・5・6年に毎週1時間、入試学力の育成を目的とした「学力向上講座」を実施する。

※今年度は、算数に限定して実施する。

- ・『家庭学習の手引き』を配布し、家庭学習（自学）を励行する。

下学年は学習習慣の定着、上学年は自ら計画を立てて取り組めるようにする。

- ・水曜日の5・6校時を、「高学年総合」として位置付け、4～6年児童の共同学習を展開する。児童の自主的・自発的な学習活動を大切にしていく。

②異学年交流活動、体験的な学習、問題解決的な学習を重視し、豊かな人間性や社会性の育成を図る。

③読み聞かせや調べ活動等の活動を充実し、読書に親しむ態度を育成するとともに、文章読解力を伸ばすよう努める。

(5) 付属校（小・中・高12年間の一貫教育）ならではの教育活動を展開

①成田高校・付属中学校職員による「出前授業」の実施（5・6年）

②付属中授業参観（6年）

③総合学習の一環として、付属中生へのインタビュー活動・部活動見学（6年）

④卒業生との交流会（6年）

⑤教職を希望する成田高校3年生の小学校体験受け入れ（全学年）

⑥中高生の授業参加（英語など）

⑦成田高校・付属中学校の施設の利用

運動会・運動会練習・なかよし集会・持久走記録会・父母の会行事（親子学習会）

ラーニングセンターの利用（5・6年）

(6) 変化する教育環境や児童の実態を考え、学校行事等の見直しを図り、効率的な教育体制の充実に努める。

(7) 全教職員による働き方改革の推進と総労働時間の削減を図る。